

プログラムの概要

学校教育教員養成課程は、各種教育職員免許状が取得できるように、教育活動の基盤となる教育学・教育心理学を中心に学修し研究する[学校教育コース]、小学校・中学校の教科の一つについて教科指導の基盤となる学問・技能を深く学修し研究する[教科教育コース]、そして、障害のある児童生徒の発達と教育について専門的に学修し研究する[特別支援教育コース]の3つのコースより構成されており、実践的指導力のある小・中・高等学校及び特別支援学校の教員を養成します。また、幼児教育を担う幼稚園教員の養成も行っています。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

教育学部では、本課程において以下の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与します。修了の認定は、所定の単位修得に加え、最終年次の「教職実践演習」（教職実践総合科目）及び「卒業研究」（専攻専門科目）で行います。

- (A) 質の高い英語力の基礎や心身の健康の重要性の理解等、現代社会での活躍に必要なリテラシーや幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。
- (B) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を修得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。
- (C) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を修得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。
- (D) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。
- (E) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。
- (F) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

- (1) 高等学校における履修内容を理解し、その知識や実技能力を身につけている人
- (2) ものごとを複数の視点から考察し、自ら判断することができる人
- (3) 考えや気持ちを的確に表現することができる人
- (4) 「学ぶ」「教える」「育てる」「発達する」という行為・現象について関心があり、教育活動に積極的にかかわる意欲がある人
- (5) 様々な活動に主体的に取り組めるとともに、共感性や思いやりの心をもって行動できる人

2. 入学者選抜の基本方針

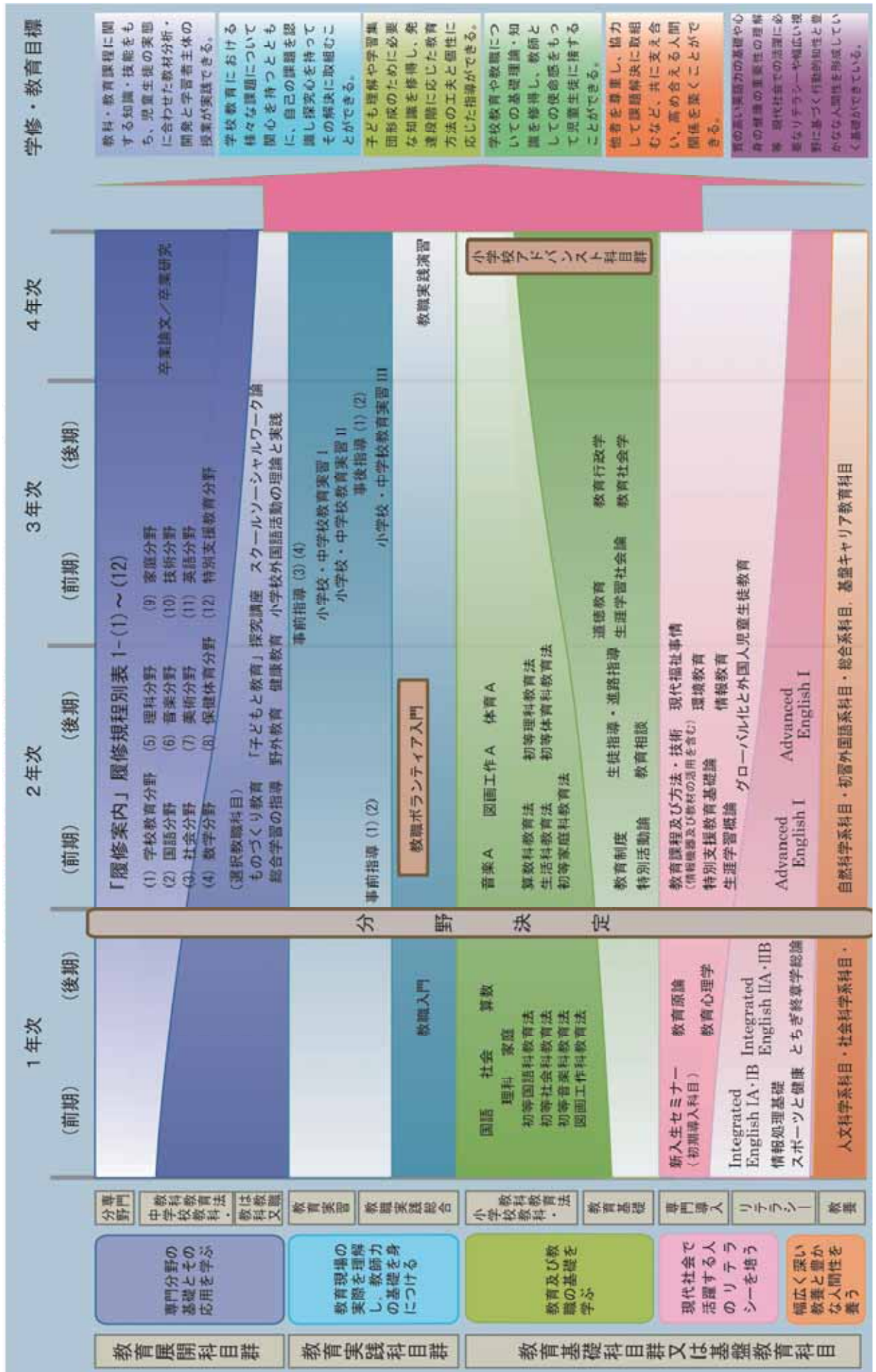
- (1) 高等学校までの教育課程を尊重し、広範な基礎学力と思考力を備えている人を評価します。
- (2) 一般入試においては、学校教育・特別支援教育系、教科文系、教科理系、教科実技系の4つの系毎に選抜を行い、それぞれの系で学ぶにふさわしい人を選抜します。
- (3) 推薦入試Ⅰ（A）においては、学校教員を目指して意欲的に勉学に励む人で、それぞれの学校種・教科の教育方法を学ぶにふさわしい個性・能力を持つ人を選抜します。推薦入試Ⅰ（B）においては、将来、栃木県の小学校教員として活躍することに強い希望と意思を持ち、小学校教員としての適性を有する人を選抜します。

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

学修・教育目標を達成するために、カリキュラムは以下の3つの科目群で構成されています。具体的には、次ページのカリキュラムツリーに示すような授業科目が編成されています。

1. 教育基礎科目群：教育の基礎理論を中心に、教員としての資質を向上させるための科目（教育基礎科目）や小学校教科の指導内容や教育方法論に関する科目（小学校教科・教育法）で構成されています。
2. 教育展開科目群：教師に必要な専門的力量を身につけるための科目群で、中学校の指導内容に関する基礎力及び教育法について学ぶ科目（中学校教科・教育法）、そこで培った力量に幅を持たせ、教師としての資質をより向上させるための科目（選択教職科目）、得意分野の創成を図るための科目（専攻専門科目）などで構成されています。
3. 教育実践科目群：教師としての基礎的な技術や心構えなど実践力を修得するための教育実践（教育実習）と、教職についての学びの道標呈示や、教職課程で身につけた教師に必要な実践的力量を確認し、評価・改善するための科目（教職実践総合科目）で構成されています。

学校教育教員養成課程 カリキュラムツリー



教育学部